

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和三年度十二月 入賞句一覧 投句数 九百五十一句

特選



高木 恵理 選

枯葉道ふんだら負けのけんけんば

大垣市

三日月 杏奈(小六)

すっかり茶色になった枯葉が落舞う冬の初め。友達や兄弟と遊んでいるのでしようか。枯葉の間から見えるアスファルトも楽しいひとときを過ごす遊び場所となるのですね。冬の日に仲むつまじく遊ぶ様子が浮んできます。さらに、枯葉を踏み音や会話までも聞こえてきそうです。下五の「けんけんば」という具体的な言葉が、この俳句をより一層引き締めています。

学校へ行こうと一步霜を踏む

川辺中学校

木下 瑛介(中一)

急に寒くなった日の朝。起きて外を見ると霜で真っ白で驚くことがありますね。そんな日は、学校に行くのもおっくうになってしまいます。しかし、作者はパリッとした霜を踏みまです。気持ちいきりりと引き締まります。そして、「さあ今日もがんばるぞ。」と思つて学校へ向かつたのでしよう。一步という言葉に強い思いが感じられる俳句です。

雪だるまぼくのかぞくとおなじかず

大垣市

くにもと あらた(小二)

雪がたくさん降つた日。雪だるまをうまく作るにはこつがあります。家族みんなで力を合わせて雪だるまを楽しく作つたのでしようか。小さな雪の塊を転がしながら、いろいろな大きさの雪だるまが完成したのでしょうか。小さな雪だるま。大きな雪だるま。雪だるまにも家族ができました。きつと、雪だるまも一人ぼつちでさみしくありませんね。冬だからこそ、心があたたまる俳句です。

秀逸

じゃんけんでたくさん負けた神無月

大垣市

前島 未来(小六)

まばたきを待っているのか流れ星

加茂郡川辺町

田口 憲之介(中一)

ゆきだるまゆきのともしちできるかな

大垣市

子やす 明か(小二)

さむいけどあいさつすればポカポカだ

大垣市

すず木 らら(小二)

こうえんでおぼけどんぐりぼくびつくり

大垣市

たに口 ちあき(小二)

おもちさんわたしはきなこママあんこ

大垣市

さわ ゆづき(小二)

たいやきが早く食べてとふるえてる

大垣市

泉 侑乃介(小六)

霜やけが足の小指であばれてる

大垣市

坂 祐奈(小六)

落ちそうなららが屋根にぶらさがり

大垣市

紙本 悠希(小六)

動物の足あつけて雪つもる

大垣市

青木 啓斗(小六)

